

ぎふ感染症かわら版

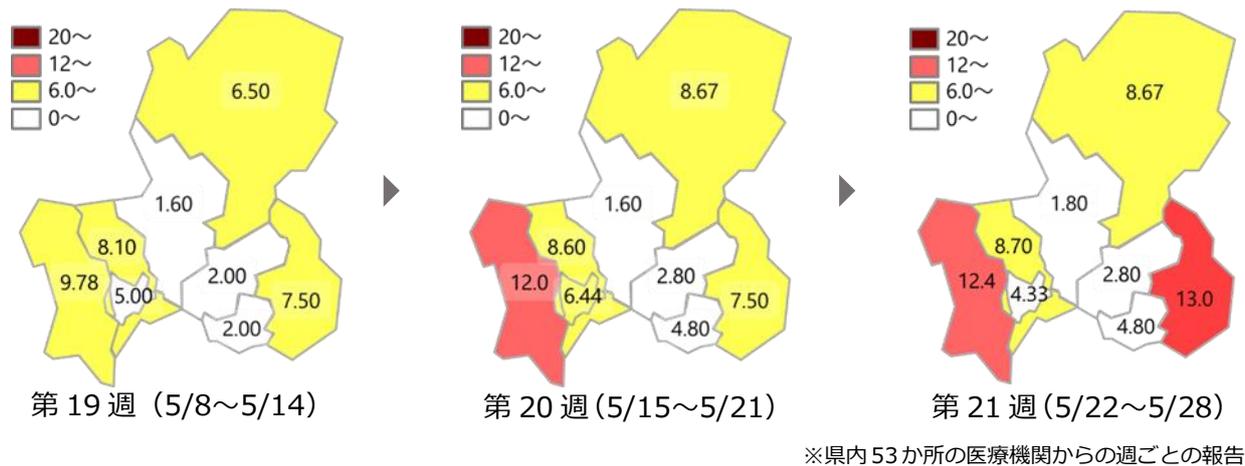
令和5年6月1日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



「感染性胃腸炎」の報告数が増加しています。

感染性胃腸炎は、細菌やウイルスなどの病原体が原因で起こる感染症です。感染経路は、病原体が付着した手で口を触ることによる感染（接触感染）、汚染された食品を食べることによる感染（経口感染）や、吐しゃ物の飛沫による感染（飛沫感染）であり、子供が集団生活を送る施設では爆発的に患者が増加することがあります。こうした集団感染が起こる要因の一つに、おむつやおう吐物の不適切な処理があげられています。保育園などの対象施設においては、いざという時にすぐ使えるよう、必要なものを揃え、適切な処理手順について再度ご確認をお願いします（次頁をご覧ください）。

感染性胃腸炎の1医療機関毎の患者数（保健所管轄毎）



感染拡大を防ぐために行っていただきたいこと

- こまめに石けんと流水による手洗い※を行いましょう。（※病原体がノロウイルスの場合、アルコールでは消毒効果が十分に発揮されません。）
- ▶ トイレの後、調理または食事前、おむつを交換した後、おう吐物を処理した後など
- 調理の際、特にカキなどの二枚貝は中心部まで火が通るよう加熱してください。
- 汚染の疑われるものはきちんと処理しまししょう。
- ▶ おむつ、おう吐物を処理したものなど



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

岐阜県感染症情報センター



おう吐物の処理方法

準備するもの

- 0.1%次亜塩素酸ナトリウム液
- 使い捨て手袋（2組）、マスク、エプロン、シューズカバー
- ペーパータオル
- ごみ袋（2枚）とバケツ
- 水ぶき用のバケツ、ぞうきん

すぐに使えるように
そろえておきましょう

ごみ袋は、バケツに2枚重ねて
用意しておくといやすいです



おう吐物の処理手順

- ① 使い捨て手袋（二重）、マスク、エプロン、シューズカバーを着け、部屋の換気をする
- ② おう吐物をペーパータオルで広めに覆い、外側から内側へと静かにふき取る
- ③ ペーパータオルと外側の手袋をごみ袋（重ねた内側の袋）へ入れ、0.1%次亜塩素酸ナトリウム液を入れて浸し、袋の口を閉める
- ④ ふき取った場所に、新たにペーパータオルをかぶせ0.1%次亜塩素酸ナトリウム液を浸し、10分以上そのままにして消毒する
- ⑤ ペーパータオルを回収し、ごみ袋（重ねた外側の袋）に入れる
- ⑥ エプロン、内側の手袋、マスク、シューズカバーをごみ袋（外側の袋）に入れ、袋の口を閉めてそのまま捨てる
- ⑦ しっかり手洗いをする



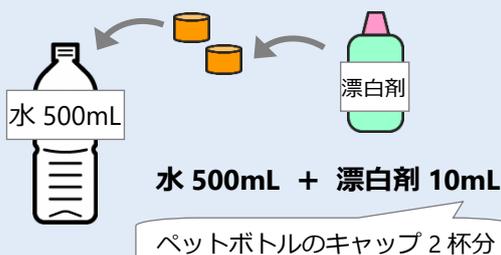
※ 次亜塩素酸ナトリウムは金属を腐食させたりプラスチックを劣化させたりするので、ふいた場所は後から水ぶきしましょう

次亜塩素酸ナトリウム液の作り方

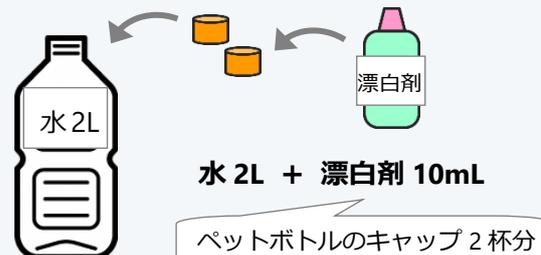
家庭用の塩素系漂白剤（次亜塩素酸ナトリウム濃度 5～6%）を水で薄めて作ります。※濃度が異なる製品がありますので、濃度を確認して調整してください。



0.1%液：おう吐物や便で汚れた場所に



0.02%液：床やドアノブなどの日常清掃に



※薄めた漂白剤は、時間とともに効果がなくなりますので、使用毎に調整しましょう。